

命の大切さを伝えよう ～食と農をつなぐ教育フォーラム～

J Aグループ北海道、北海道フットボールクラブ、北海道教育大学、北海道教育委員会は27日、4者相互協力協定事業の一環として、26年度「食と農をつなぐ教育フォーラム～伝えよう、命の大切さ」を北海道教育大学札幌駅前サテライトで開いた。

J Aグループ北海道、北海道フットボールクラブ、北海道教育大学は、19年度から食の大切さや農業の役割を子どもたちに教えることができる教師の育成を目指す「体験塾」、健康な体づくりや地産地消などについて学ぶ「教室」など、北海道の食育とスポーツ文化の発展に取り組んできた。

今日的な課題として、北海道の子どもたちの「学力や体力の向上」「食育」の推進等に、これまで以上に取り組むことが期待されているとの捉えから、23年10月、本道の将来を担う子どもたちの「学力や体力の向上」「食育」などの一層の推進を図り、成長を支援するため、道教委を含む4者が相互協力協定を締結。「本を集めようキャンペーン」や「体力向上プロジェクト」など様々な連携事業を行っている。



今回の「フォーラム」もその一環。食と農の大切さを子どもたちに伝える「食農教育」が今日重要になってきていることから、「食からみる命の大切さ」をテーマに、食と農をつなぐ教育を考えるフォーラムを実施した。

フォーラムでは、開会に当たり、北海道フットボールクラブの野々村芳和代表取締役社長が「フォーラムの内容を多くの人たちに伝えられるよう取り組みたい」と挨拶した。

本道の食農教育についての取組紹介のあとパネルディスカッションを行い、食と農の大切さを子どもたちに伝える事例とその成果、取組に必要なことなどについて意見交換した。